

〔農場紹介〕

CM 認定農場・高原牧場

有限会社 高原牧場 武田 誠

1. 農場の概要

宮崎県は中部海岸平野を除き大部分が山地で占められており、気候的には1年を通じて温暖多照で、日較差は少ないなど恵まれてはいるが、梅雨期の集中豪雨や台風の被害に見舞われることもある。当農場がある都城市は宮崎県の南西部、霧島火山群の東端、鹿児島県との県境に位置し、鹿児島県の末吉町や財部町と隣接している。県庁所在地宮崎市とは宮崎自動車道で1時間の距離にある。畜産に限らず農業が盛んな地域であり、繁殖豚の飼育頭数はおよそ45,000頭である。

(有)高原牧場は西日本地区における住畜(住商飼料畜産株) SPF種豚の後代検定並びにモデル農場として、平成5年に当地に新規設立されたSPF豚コマースシャル農場である。当農場の総面積は約65,000m²で、豚舎はすべて陽圧のウインドウレス豚舎であり、1,200頭の母豚を飼育している。当社は、日本SPF豚協会のCM認定農場として、その基準に沿った近代的な設備と厳重な防疫管理の基で良質なSPF肉豚の生産を行い、生産性および経済性の追究を行うとともに、住畜SPF豚の肉質検定農場としてデータを収集し、原種豚の改良に寄与している。

2. 施設・規模等

- ①所在地 宮崎県都城市丸谷町1145-2
- ②飼育規模 住畜SPF豚1,200頭一貫生産
- ③農場施設 事務所・倉庫

肉豚舎5棟
 分娩子豚舎2棟
 (分娩舎:28豚房×6室)
 ストール舎2棟
 更新豚舎1棟
 堆肥舎1棟
 浄化槽1棟
 ④従業員数 男性従業員:10名
 女性従業員:3名
 浄化槽・堆肥舎:1名

3. 飼養管理

- ①全豚舎陽圧ウインドウレス豚舎
 外気温の変化を最小に抑える断熱構造とコンピューター制御による換気システムにより最適な豚舎環境で飼育
- ②冬季の子豚舎は床暖房と大型ファンヒーターで温度維持、育成率向上に努めている
- ③ウイークリー管理を基本としている
 毎週木曜日の週1回離乳 およそ50~55頭
 翌週火曜日に1度目、水曜日に2度目の種付
 種付方法; AI+AI (50%) AI+NS (25%)
 NS+NS (25%)
 人工授精用精液は住商飼料畜産株より購入している

4. 防疫管理体制

日本SPF豚協会のCM農場認定規則における

農場設備基準に適した施設であり、また防疫管理基準を遵守している。

住商飼料畜産(株)中央研究所の住畜クリニックに加入し、(有)高原牧場ヘルスチェックプログラムに基づく以下の検査を行い、獣医師による指導を受け、農場の疾病コントロールを行っている。

- ①臨床観察
- ②環境調査 (室温・温度・風速・ガス濃度等)
- ③血清抗体検査—PRRS 等
- ④細菌検査—細菌検査と薬剤感受性試験
- ⑤屠場検査 (解剖検査)
- ⑥その他寄生虫検査等必要に応じてオプション検査を実施

5. 糞尿処理

尿処理：活性汚泥方式

ふん処理：攪拌機により完熟堆肥化

各豚舎からの集ふんは24時間自動運転ですべてスクレイパーで行う

完熟堆肥化した堆肥は、地元周辺の農家に無料配布

6. 肉豚の販売

全量地元において屠畜し住商飼料畜産(株)に販売、関西地区を中心に大手スーパーにて認定農場シールを使用し認定SPF豚肉であることを明示して販売されている。

7. 今後の課題

生産性の向上によるコストの削減のため一層の努力を図る。

表1 生産成績

1母豚当たり離乳頭数	20.9頭
母豚更新率	20.4
農場飼料要求率	3.28
肉豚死亡淘汰率	2.90%
出荷肉豚1頭当たり薬品費	441円

*薬品費は認定規則の規制対象薬剤

表2 屠場検査における肺病変のスコア

検査頭数	15頭
スコア0	10頭
スコア1	4頭
スコア2	1頭
スコア3以上	0
0および1の割合(%)	93.3%

表3 屠場検査における鼻甲骨・中隔病変のスコア

検査頭数	15頭
スコア2以下	15頭
スコア25以上	0
スコア2以下(%)	100%

表4 AD抗体

検査頭数	56頭
ラテックスまたはエライザ 陽性数	+0, ±0
” 陽性率	0%
G I または G III 陽性数	—
” 陽性率	—
ワクチン使用の有無	種豚のみ

表5 臨床観察による観察結果

トキソプラズマ	無
豚赤痢	無